

礼拝プログラム

2018年6月10日

司会: 倉野兄 奏楽: 石塚姉 通訳: 石塚兄

前奏: Prelude

賛美: Hymn

使徒信条: * Apostle's Creed

アナウンスメント: Announcement

牧会祈禱: Pastoral Prayer

感謝献金: Offering

メッセージ: Sermon

「私達に意味を与える神」

"God Who Gives Us Purpose"

賛美: Hymn

頌栄: Doxology

祝禱: * Benediction

*印箇所は起立ですが、起立が困難な方は着席のまままで結構です。礼拝メッセージは英語に訳されません。必要な機器を会堂入口にてお求めください。

Please feel free to remain seated or sit down when the congregation is asked to stand. The sermon will be translated from Japanese to English. You can pick up a translator device at the entrance of sanctuary.

アッシャー: ホッグ姉、イノサント姉

グリーター: アーリー姉、石井姉

ナーサリー: カーター姉、パーク姉

チルドレンチャーチ: 大倉姉、奏姉

セキュリティ: ジェイ兄

来週、17日の礼拝

司会: 大野兄 奏楽: ヴォウト姉 通訳: 石塚姉

メッセージ: 「あなたは偶然の産物ではない」

賛美: LP254、LP190

アッシャー: 本多姉、リード姉

グリーター: 井口姉、町田姉

ナーサリー: 本多姉、奏姉

チルドレンチャーチ: 川久姉、奏姉

セキュリティ: 川久兄

おしらせ

本日の礼拝後の予定

コーヒー、教会総会、日語執事会

■本日の礼拝によろこそいらっしやいました。教会について、集会、信仰、キリスト教等について、ご質問がある方はお気軽に牧師までおたずねください。

■今日は礼拝後に教会総会をもちます。この度は特に教会のビジョンと将来に対する大切なお話しをしたいと願っております。教会員の方々は極力、ご出席ください。教会員でない方もよかったですらオブザーバーとしてご参加ください。

■今日は宣教献金の日です。これらはマウントオリブ・ミニストリー、JCFN、サウスベイ教会、ラスベガス教会、ツーソン教会、ブレント・キング師、ケブ・ウエスト師、スー・ファミリー、藤間ファミリーのはたらきのために捧げられます。

■修養会は第一回の締め切りが過ぎましたが、空き室がある場合、レイトフィー \$ 20が加わりますが、**今日まで申し込みを受けつけます。**英子姉にお申し込みください。また、修養会に参加される方はネームタグが必要です。名札は教会で用意しますが、それを首から下げるケースは各自、ご用意ください。お持ちでない方は修養会会場で一つ、一ドルでお分けします。希望者はお名前を八尋ホールにご記入ください(七月一日締め切り)。

■修養会のバスの席(49名乗り)は行きは数席残っていますが、帰りは残席がなくなりましたのでご了承ください。またこのために三度のラブ・オフリングがなされ、合計が \$ 466となりました。皆さんのご愛とサポートをありがとうございました。

今週の予定

12日(火)	南加牧師会	
13日(水)	水曜集会	7:30pm-
14日(木)	木曜集会	10:30am-
15日(金)	会報発行日	
16日(土)	ユース	6:00pm-
17日(日)	男子会、婦人会総会	

落着け

「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」(ヨハネ14章6節)

「中年の危機」という言葉、そして「更年期」という言葉を聞くことがあります。正確には「中年の危機」と「更年期」は違うようで、前者は精神的なもの、後者は肉体的なものを意味するようです。

孔子は「40にして迷わず」と言いましたが、実際のところは40代が一番、悩みが多い時なのかもしれません。20代、30代と一応、色々なことを経験してきて、人生の折り返しを迎え、ふっと空しさを感じたり、将来も漠然としていて、先がはっきりと見えない不安。上司と部下の間に立つ人間関係、子供がティーンになり、思いが通じず、意見が合わず。自分の健康や親の健康についても色々とな気になることが・・・。

ある人は30代までは浅い、流れの早い川であり、40になると急に川幅が広がって海に出てしまい、新たな陸地を見つけるまで、しばらくの時を要すると言いました。皆さんはどう思われますか？

私達はある程度の年齢になりますと、もう一度自分自身を見つめなおし、これまでの価値観について再考することがあります。それまでは表面的なもので何とかやりくりしてきたけれど、そんな表面的なものから深さを求め、本物を求めるようになる、それが年齢を重ねることではないでしょうか。こんなことを考えているとやはり、一つの書物が心に思い起こされます。そうです、何千年もの歴史の検証をもとせず、今も私達の心の深みに光を照らし、本物の匂いがプンプンする聖書です。ここに私達の余生に立ちうる土台を見つけ、その上にこれからの人生を建てあげていきませんか。